



病気になったことによって失ったものもあるけれど、「前にはまったく分からなかったことがみえるようになった」とおっしゃる皆さん。その貴重な体験談から、私たちもいろいろなことを学ばせていただきます！（編集部）

vol.38

生まれながらの障害と複雑な生育歴、母親との共依存 医療と福祉の連携で就労移行支援を受けるまで（下）

今月の人 **オルカペンネさん**（仮名、女性、26歳）

疾患名：発達障害、高次脳機能障害、体幹機能障害他

母から離れて一人暮らしで、大学生活をおくっていましたが、様々な困難がありました。

大学4年になれば教員試験があるため、3年から試験の準備や教育実習をするのですが、私は人前が元々苦手で、緊張すると頭が真っ白になり何を言っているか分からなくなってしまいます。先生に「その成績と授業のやり方では受からないよ」と何度も言われました。その頃、母が恋愛投資詐欺にひっかかって数千万の借金を作り、そのうち500万は私名義のクレジットカードで勝手に借りられたものでした。母から愚痴の電話が多く、彼氏にも振られて、糸が切れて3年の秋から大学を休んで引きこもりました。

その冬に小樽を旅行して海の断崖を登ると、深い海の青、北の大陸の激しい波しぶき、澄んだ淡い空が広がり、下から風が吹き上げてきて顔が自然と上を向きました。とても自由だと感じ、生きている感覚がして、人生の中で一番深く感動しました。『この景色を抱きしめたい。この景色の一部になりたい』と思い歩を進めて、崖から海に落ちました。今まで私なりにたくさんSOSを出してきたけれど、人から理解されず、自殺する気はなかったけれど、助けの求め方が死しか分かりませんでした。

グループホームの規則正しい生活

浜辺に打ち上げられたのを発見されて救急車で運ばれたそうで、病院で目覚めたのですが記憶の健忘があり、徐々に思い出し1カ月半後に退院しました。大学に行っていないことも母にばれて、大学3年の終わりに退学して東京に戻りました。

東京に戻ってからホテルで配膳や、デパートで物販のアルバイトをしていました。母と距離を取りたくて、バイトや遊びで夜も家に帰らない生活を送っていました。

かつて通院していた慈恵医大第三病院の渡邊修先生に、現状を相談すると、母子分離のためグループホームに入ることを提案されました。23歳の秋から生活保護を受けてグループホームに入り、同じ法人が運営する就労継続支援B型の事業所に通いました。門限があり、時間が決まっている規則正しい生活は児童相談所以来でした。健康的な生活になり、最初は救われて天国のような感覚でした。金銭管理があり、決まったお小遣いしかもらえないのは人生初めてで、値札を見るようになりました。安くても美味しい物やリサイクルショップでの買い物は目からうろこで、衣食住が安